

校番 1	福山市立鞆の浦学園
最終更新日	2021年（令和3年）9月30日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の理念のもと、各中学校区・学校は「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自校

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校が進めている取組内容について、概ね肯定的な評価をいただいた。 • 開校3年目も引き続き、児童生徒のために積極的に取組を進めていくことを期待される。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>① 課題発見・解決能力 ② 情報活用能力 ③ コミュニケーション能力 ④ 郷土愛</p>
<p>ミッション</p> <p>義務教育9年間の一貫した教育を推進し、将来の日本やふるさと福山を支え貢献する人材を育成する</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> • 物事を多面的に見たり、これまでの経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見することができる。 • 多様な他者と協働したり、よりよい解決方法を選択したりすることで目的に応じた納得解を導き出したり実行したりすることができる。
<p>学校教育目標</p> <p>郷土福山を愛し、心身ともにたくましく意欲を持って主体的に学ぶ子どもの育成 ～ ふるさと自然、人、歴史、伝統、文化に触れながら、学びをつなぎ深める～</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適切かつ効果的な情報を収集できる。 • 収集した情報を分類・整理・比較・関連付けて、目的や意図に応じて適切かつ効果的にまとめることができる。 • 多様な他者を相手とし、情報と関連付けてより効果的な方法で発信できる。
<p>現状</p> <p><児童生徒> ※()内は一昨年度</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「住んでいる地域のことが好きである」 前期課程 97.6%(91.9%)、後期課程 91.5%(96.5%) • 「鞆学」では、意欲的にチャレンジする子ども達の姿が見られ、授業時間以外でも自分達で考えて活動する姿が見られた。地元への探究心は、郷土愛や自己肯定感の高まりにつながっている。 • 「自分の考えは認められている」 前期課程 74.4%(79.6%)、後期課程 81.6%(84.2%) <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> • 「授業で考えることは面白い」 前期課程 80.8%(76.5%)、後期課程 87.6%(83.3%) • 「授業がよく分かる」前期課程 89.6%(94.3%)、後期課程 89.5%(85.7%) • 「意欲を持って学んでいる」前期課程 83.2%、後期課程 90.0% • 乗り入れ授業により学習意欲の深まり・広がりが見られた。6年生への乗り入れは、次年度に向けての安心感につながっている。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。 • 多様な他者と協働することで新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解を導き出すことができる。
	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> • 鞆のよさや課題を理解した上で、解決策を考えることができる。 • 世界的な視野で、鞆のよりよい町づくりに貢献できる。
	<p>研究 主題内容等</p> <p>「教科・学年の枠を超えた9年間の一体的な教育内容と教育体制の確立」</p> <p>「探究」の世界にどっぷりつかると！ ～「認知のしくみ」から個人テーマを設定し、これからの学びを探究する～</p> <p>学びの土台</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校と家庭の学習・生活を繋ぎ、すべての活動に主体性と責任感 • 学園会作成の「幸せの道」を踏まえ、安心して学べる共感・支持的文化
	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「なぜ？」「わからん、教えて！」「やった、わかった、できた！」「もっとやりたい！」などの声がする授業 • 考え、話し合い、そして学び合う、みんなとともに自信を育てる授業

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鞆の浦学園

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力セ達成評価	力セ達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力セ達成評価	力セ達成評価	総合評価
3	自ら考え学び続ける授業づくりを進めて、学ぶ意欲と基礎学力を向上させる。	★	見直し	児童生徒、教職員一人一人が学びの伸びや成長を実感できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は個人テーマを設定・実践し、学びの伸びや成長を記録して計画的に交流・検証・発信する。 ・「幸せの道」の内容を議論し続け、誰もが安心して学べる具体策を設定し取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は子どもの学びの伸びや成長の具体を積極的に語るができる。 ・児童生徒アンケート「学級は安心して学べる場」「自分の考えは認められている」等の肯定的評価85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □個人テーマの実践記録をもとに「取組」については積極的に語ったが、「学びの伸びや成長」については積極的に語れていると言い切れない。 □児童生徒アンケート肯定的評価81.2%, 88.5% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで「取組」が中心となっていたものを「子どもの学びの伸びや成長」にする。 ・児童生徒が「幸せの道」を他学年と交流し、日々の生活を見直し改善していく。 				
3	「ふるさと鞆・福山」への愛着と誇りを育てる。	★	見直し	「ふるさと鞆・福山」のより良い町づくりについて、自分で活動を選び行動することができる。(自己選択・決定)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと鞆・福山」の課題をSDGsと関連付けてとらえ、課題発見・解決学習を進める。 ・一人学びと協働学びをバランスよく効果的に設定し、新たな発見をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケート「ふるさと大好き」「SDGs達成に貢献している」等の肯定的評価85%以上 ・児童生徒アンケート「探究大好き」等の肯定的評価85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒アンケート肯定的評価は92%, 89.5%だが、「貢献」の捉えに差がある。 □児童生徒アンケート肯定的評価84.4%。適切な探究方法を選択できていない児童生徒がいる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの取組を実行したり、校内や地域に発信したりし、見える形で貢献する。 ・各教科で児童生徒が取り組む課題を「選ぶ、決める、考える」場を設定する。 				

3	働き方改革の意義を理解し、自ら実践することができる。	★	見直し	コロナ禍の時代に一人一台端末を活用して学びの質を高め、年間を通して計画的に業務を遂行する力を付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 「学びが面白い」の深化をめざし、各自が一人一台の端末を活用した新たな学びの取組を生み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」の肯定的評価90%以上 	<input type="checkbox"/> 教職員アンケート肯定的評価94%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学びの保障に取り組むために、一人一台端末の活用方法について実践交流し、その効果を検証する。 					
				<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を厳守するとともに、見直しを持った業務管理を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が、時間外勤務1ヶ月45時間以内、年間360時間以内 	<input type="checkbox"/> 全教職員が時間外勤務1ヶ月45時間以内を達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> 学びの取組の質を高めるために、タブレット端末の活用や、対面授業の取組の良さを、子どもの具体を通じた職員同士の対話を通して見直す。 								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。